

【日越大学メールマガジン Vol.04 2017年9月号】

(本メールマガジンは、これまで日越大学構想に関するセミナー・会議等に参加された方や、名刺交換させていただいた方々にお送りしております。)

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学です。2016年9月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に約150名の学生が在籍し、日本語と英語を学び、MBA・公共政策・地域研究・ナノテクノロジー・環境工学・社会基盤の各専攻プログラムで勉強しています。

皆さん、こんにちは！日越大学構想・国内支援事務局です。

本メールマガジンでは、毎月1回、日越大学の近況や日越大学を取り巻くベトナムの状況について、読者の皆様にお届けいたします。このメルマガを通して、もっとたくさんの方に日越大学のことを知っていただきたいと思っています。

【今月のトピックス】

1 日越大学ニュース

- ・修士課程第2期生96名が入学

9月9日、ベトナム・ハノイ市内で2回目の入学式が開催され、第1期生や日越両国の来賓など総勢約250名参加のもと、修士課程2期生の96名が晴れて入学しました。入学式では、冒頭で古田元夫学長より、「日越大学は日本とベトナム両国の政府、国民の友好関係のシンボルになっており、第1期生の奮闘、努力により学校のイメージが高まりつつある」とベトナム語での挨拶がありました。続いて、ベトナム国家大学ハノイ校のグエン・キム・ソン総長、梅田邦夫駐ベトナム大使、日越友好議員連盟特別顧問の武部勤氏より祝辞が述べられた後、新入生代表のチン・ゴック・ホン・アインさんより「日越大学で学べる機会を生かして、国、世界に貢献していきたい」と力強い意気込みが述べられました。入学式の様子については、在ベトナム日本国大使館のホームページでも取り上げていただきました。

http://www.vn.emb-japan.go.jp/itpr_ja/Nichietsudaigaku_nyugakushiki.html

なお、協力企業と日本政府の協力により、第2期生のうち約7割の学生が奨学金を受けることが決まっております。

<http://www.viet-jo.com/news/nikkei/170911233352.html>

また、同日午後にはベトナム国家大学ハノイ校（VNU）にて、東京大学元総長の小宮山宏氏、マイ・チョン・ニュアン VNU 元総長を講師にお招きした「特別講義」が開催されました。これは、入学式の開催に合わせ、修士課程全プログラムの共通科目である「サステナビリティ学基礎論」の第一回講義の位置づけとして実施されたもので、第 1・2 期生の他、日本・ベトナム両国から多くの関係者が参加し、講義後には白熱した質疑応答が展開されました。

・第 1 回理事会開催

9 月 8 日、日越大学第 1 回理事会がハノイ市内で開催されました。日越双方の理事出席のもと、理事会人事が決定され、理事長にベトナム国家大学ハノイ校総長のグエン・キム・ソン氏が、副理事長には早稲田大学参与・名誉教授の内田勝一氏がそれぞれ選任されたほか、日越大学の中期発展戦略等について、活発な議論が交わされました。理事会の様子については、在ベトナム日本国大使館のホームページでも取り上げていただきました。

http://www.vn.emb-japan.go.jp/itpr_ja/nichietsudaigaku_rijikai_hassoku.html

・新入生オリエンテーション合宿を実施

9 月 6 日、7 日の一泊二日で、ホアラックにあるベトナム国家大学ハノイ校ゲストハウスにおいて新入生合宿が行われました。夜のガラディナーでは、各プログラムの学生が、歌を披露したほか、ムカデ競争や竹を使ったダンスで交流を深め、最後は、キャンプファイヤーで締めくくりました。二日目は、日本文化に関するセミナーや大学院規則、図書館の利用法に関する説明を受けました。教職員と学生、学生同士の距離を縮めるよい機会となりました。

・日越大学インターン生が続々と来日

先月号にてお伝えした通り、第 1 期生のうち 56 名がインターンのため来日しております。すでに出発した社会基盤コースの学生は、幡ヶ谷にある JICA 東京の宿泊施設から東京大学に通い、日本人教員から研究指導を直接受けています。3 か月間の日本滞在中には、実地研修や就労体験、就職イベントへの参加などが予定されております。インターンのため日本に渡航する学生の中には、「飛行機にも乗ったことがない」学生がいたり、どんな色の服を着たらいいのかと、日本人教職員に質問をして、スーツを新調する学生もいました。最大のドラマは、出発の日に空港で恋人にプロポーズをした学生でした（見事、結ばれました！）。

・特別講演会「文化遺産を活かした町づくり」の開催

8 月 29 日、奈良女子大学の上野邦一名誉教授を講師としてお迎えし、日越大学にて特別講演会

「文化遺産を活かした町づくり」が開催され、日越大学学生・教員の他、ハノイ師範大学生・教員、国立建築学院教員、国立行政学院教員、ハノイ建築大学学生・教員等、総勢約 60 名が参加しました。ベトナムの世界遺産の一つであるタンロン城遺跡の発掘調査を含む上野先生の長年の考古学研究から得られた知見から、「文化遺産とは何か」、そして「文化遺産を保存するために我々はどうのような意識や考えが必要なのか」など、文化遺産の在り方を根本から考えさせる内容となりました。講演後の質疑応答では、日越大学学生の参加者からも、「行政の意向が強く反映されがちなベトナムにおいて、文化遺産の定義はどのように考えるべきか」や「文化遺産を巡る意識について専門家と地域住民の齟齬をどのように解消すべきか」といった鋭い質問が出るなど、参加者の興味・関心の高さを伺い知れる興味深い講演会となりました。

・「サマープログラム 2017」の開催

8 月 20 日から 27 日までの 1 週間、立命館大学と法政大学の学生 20 名が日越大学を訪問し、日越大学が主催する「サマープログラム 2017」に参加しました。日越大学の日本人・ベトナム人教員より初歩のベトナム語、ベトナムの歴史、社会、経済などを広く学ぶ一方、民族博物館の見学、水上人形劇・サーカスの観劇といったハノイ観光を体験するなど、「勉強と観光」を組み合わせた日越大学独自のプログラムを経験しました。その他、2015 年にハノイ市内にオープンしたイオンモールロンビエン訪問、ベトナム人家庭へのホームステイ、ハロン湾観光など、充実した日々を過ごした学生にとっては、ベトナムや日越大学を身近に感じてもらう貴重な機会となりました。以下のページにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。

<http://vju.vnu.edu.vn/en/news/all/-we-will-be-back-to-vietnam-impression-left-after-summer-program-in-the-heart-of-japanese-students> 日越大学ホームページ（英語）

<https://www.facebook.com/jicavju/> 日越大学 Facebook（日本語）

・自民党青年局団の来訪

8 月 23 日、自民党青年局約 50 名が海外研修の一環として日越大学を訪問されました。冒頭、自民党青年局の鈴木馨祐（衆議院議員）団長からのご挨拶に続いて、古田学長より日越大学の概要について説明がありました。その後、学生代表 5 名（地域研究 4 名、公共政策 1 名）との活発な意見交換や、大学施設の視察が行われ、有意義な交流の場となりました。

今回の視察の様子は、ベトナムのテレビ局「VTV」のニュースとして取り上げられました。ベトナム語の放送ですが、現地の雰囲気だけでも味わっていただければと思います。

<https://www.youtube.com/watch?v=72xWmEhxQ8Q&feature=youtu.be&t=20m18s>

・早稲田大学における教員研修の開催

日本語教育プログラムにて、非常勤講師を務めている3名のベトナム人教員（ハノイ外国語大学日本語日文化学部所属）が、7月23日～30日の間、本邦研修を行いました。本研修は、日本語アクティブ・ラーニングの理解を深めることを目的としていますが、早稲田大学での授業見学をはじめ、協力校である拓殖大学日本語別科の訪問、国際交流基金日本語国際センターなど、さまざまな機関で、有意義な研修交流を行いました。

2 日越大学で働く専門家の紹介

【第4回：片山 浩之 専門家（環境工学）】

ベトナム・ハノイの日越大学で働く方々を紹介するコーナー。今回は、片山浩之専門家（環境工学プログラム）をご紹介します。

昭和40年代の兵庫の生まれ。1989年東京大学工学部都市工学科を卒業後大学院に進学、1993年に同博士課程修了（博士（工学）取得）。その後、東京大学大学院工学系研究科助手を皮切りに、同大学院新領域創成科学研究科に一時在籍後に工学系研究科に戻り、2007年より准教授、2016年から日越大学にて勤務しています。

研究テーマとしては、水中の病原微生物、中でも病原ウイルスを対象とした水の安全性に関する研究を行ってきています。途上国の水環境調査も行っていますが、都市下水の中のウイルス濃度は先進国と途上国であまり差がないことなども見つけてきました。最近では、水道水の浄水処理の中でどれくらいウイルスが除去できているのかを測定するなど、世界に先駆けて水中ウイルス測定の実験分野における研究成果を発表しています。

国際的にも、世界水協会（International Water Association）における水中の健康関連微生物研究委員会の委員長を務める（2017年より）など、幅広く活躍しています。

日越大学では、先生の明るく気さくな人柄から、専門家のムードメーカー的役割を果たされています。また、プログラムの学生達の中に自ら飛び込み、環境工学分野のみならず多分野において、あるときは学生とキャンパス外においても議論を交わす、スキンシップを大切にされている熱血漢で人情味溢れる先生です。

3 プログラム紹介

【第2回：環境工学】

前号に引き続き、日越大学修士課程の各専攻プログラム（MBA・公共政策・地域研究・ナノテクノロジー・環境工学・社会基盤）の学生や講義の様子などを紹介してまいります。今回は、環境工学プログラムをご紹介します。

環境工学プログラムは、化学反応や遺伝子工学を含むミクロの視点の知識を備えたうえで、社会の環境問題を解決するというマクロの志向をもつ学問分野であり、水質測定手法の開発から環境関連法規の立案に至るまで、幅広い分野を対象としています。

環境工学プログラムは、東京大学と立命館大学の2大学が協力して幹事校を務めています。参画する教員それぞれの個性を適宜発揮しながら、日越大学が標榜する Sustainability を体現し、着実に教育研究の実を上げるべく、学生中心の伝統を共に築こうとしているところです。

第一期生6名はこの9月に2年生になり、これから3か月間にわたるインターンシップで日本に行くことを楽しみにしており、研修計画の発表会でのプレゼンを行うなど、準備は万端のようです。新入生である第二期生12名は、開学式前のオリエンテーション時から元気いっぱい、日越大学の新しい伝統を作ってくれることと期待しています。

4 イベント案内

・学生募集説明会の開催

2018年9月入学者の募集活動の一環として、11月2日(木)午後、早稲田大学(東京都新宿区)にて、日本に留学中のベトナム人留学生ならびにベトナム留学に関心を有する日本人学生を対象とした「学生募集説明会」を開催する予定となりました。詳しくは、次号のメールマガジンでお伝えいたします。

・国際会議 (Green Technologies for Sustainable Water-2017) の共催

本国際会議は、10月13日から16日、パンパシフィックハノイにて、日越大学、シドニー工科大学、ワーロンゴン大学、天津工業大学及びハノイ工科大学による共同で開催され、水供給における新技術、排水処理、水の再利用、排水の再資源化、水資源管理に関する議論や情報共有及び研究成果について発表することを目的としています。

<http://gtsw2017.org/>

【編集後記】

2016年9月の開学式、第1期生入学から早1年が経過しました。ベトナムにおいて積極的なプロモーション活動を展開したこともあり、昨年よりも優秀な学生がベトナム全土から入学しました。日本との接点や入学動機は学生によって様々ですが、入学時の初志を忘れずに、日越大学ならではのインターンシップなどのプログラムに一生懸命取り組み、日越関係の発展に関わるようなキャリアを拓くことを願っております。

日本語版の Facebook ページが新たに開設されました。Facebook では日越大学で起こる日常的

な話題を随時アップしていきますので、ぜひ「いいね！」をお願いいたします。

日越大学 Facebook（日本語） <https://www.facebook.com/jicavju/>

【お問合せ先】

（独）国際協力機構（JICA） 東南アジア・大洋州部内

日越大学構想・国内支援事務局 神田・新村

Tel: 03-5226-9065 E-mail: 1rtd3-vju@jica.go.jp

日越大学 HP <http://admission.vju.ac.vn/>

JICA HP <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html>

日越大学 Facebook（ベトナム語） <https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts>

日越大学 Facebook（日本語） <https://www.facebook.com/jicavju/>

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学構想・国内支援事務局（1rtd3-vju@jica.go.jp）までメールにてご連絡をお願いいたします。